



名古屋いのちの電話



写真 文 珠 幹 夫

鳥は飛ばねばなるぬ

坂村真民

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

怒濤の海を

飛びゆく鳥のように

混沌の世を生きねばならぬ

鳥は本能的に

暗黒を突破すれば

光明の鳥に着くことを知っている

そのように人も

一寸先は闇ではなく

光であることを知らねばならぬ

新しい年を迎えた日の朝

わたしに与えられた命題

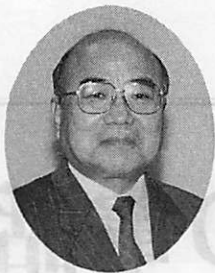
鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

雑誌 致知

「遊筆遊心」

第二十回ほろほろ鳥筆」より



500ドルの恩返し

西 沢 信 正

お金がすべてではない。しかし、お金はすべての始まりである。そういうと誰もが物質的な考え方ではボランティア精神にそぐわないのではないかと思勝ちである。私はそうは考えない。お金なしでは何もできないのが現実である。阪神淡路大地震の時、多くのボランティアが活動した。活動の先端に立った人たちの背後に、それを資金的に支援した親や組織や会社や宗教団体、地域社会があったことを忘れてはならない。その金銭的支援が人間の尊さを教え人間の命を救っているのである。

私の勤務する同朋大学の学生も延べ1500人余が昨年2月から3月にかけて現地に入って、ボランティア活動に当たった。安心して働けたのは、東本願寺の大阪教務所が難波別院の宿泊施設（風呂も洋式便所も備えてある）を「無料」開放してくれたからであった。洋式便所とわざわざ書いたが、学生の中で現地と大学の間のコーディネーターとして、活躍した宮島智也君は身体障害者で車イスを使っている。もし洋式便所がなかったら、彼のボランティア精神を実践できなかった。避難所の学校などこれから少なくとも一つや二つは洋式便所を設置すべきである。予算という枠にしばられていままでも無視されてきたのであった。また、「無料」で開放したと書いたが宗教団体なら当然と考えるであろうが、私が強調したいのはその施設を維持するのに、多くの人たちの支援のお金が役立っていることである。

神戸市内の被災地を歩きながら私の心をよぎったのは、旧ユーゴスラビア、とくにボスニアでの戦争と被害地の映像であった。昨年暮れに和平合意が成立して4年近くに及ぶ戦闘は一応終わった。戦争のさ中に生きた人たちは神戸の惨状と同じ破壊の苦しみに加わえて、いつ銃や大砲の弾丸が炸裂するかわからない恐怖におののいていた。特に天王山ともいべきボスニアの首都サラエボでの激しい戦闘の与えた傷の深さを想像していた。芦屋で深江で、御影で倒れた家の

間を通りながら「戦争でない」という安堵感を持ったものだ。しかしそのサラエボで、ジョージ・ソロスというニューヨークの投資家でフィランソピスト（社会福祉事業家）が救援活動にお金を出し、ヨーロッパのボランティアがガス、水道、電気の供給に汗を流していたことは余り知られていない。ライフラインを戦争で断たれては復旧し、復旧できたと安心したら爆弾で破壊されるという繰り返してであった。ハンガリ生まれのユダヤ人、ソロスが稼いだ金を人道援助にと生かした行為が、どれだけ被災者に生きる勇気を与えたことだろう。（ソロスについては早川書房から最近伝記が出版された。）

いまから約37年前、この地方を伊勢湾台風が襲った。名古屋市南区にあった私の家（借家）も海水の中にあった。当夜私は名古屋地方気象台を担当して台風の進路と強さを新聞社に電話で伝えていたが、生後9ヶ月の娘をかかえて妻は、暗闇の風雨の中、押し寄せる海水に胸までつかって二、三軒隣の二階家に逃れた。一夜明けて妻子の安否を気づかないながら自宅に帰って、生存を確認できた喜びはたとえようもなかった。一切の物を失なったことに未練はなかったが、多くの本とともに、3か月前にアメリカから帰った時、大切に持ってきたアメリカの新聞社でいた原稿の切り抜きのすべてを、泥水に流された無念さは今も残る。

台風から二週間もたたないころ、一通のエア・メールが届いた。アメリカの滞在中に自宅に受け入れてくれ、一切家賃も食費もとらなかった友人からであった。その中に500ドルの小切手が入っていた。当時のレートで18万円。私の月給が2万円の時である。私は友情と小切手の重さに妻とともに泣いた。手紙にこうあった。「私にお返ししようと考えないで。立派に自立したら他に困っている人を助けて下さい。」彼はソロスと同じユダヤ人である。

（理事・同朋大学教授）

☆ 衝撃が与えたもの

1995年1月17日午前5時46分、鯛と蛸で名高い明石海峡の海底で大鯨が身を揺すった。それはさまざまな影響を日本の社会に及ぼして、単なる1地方の災害であることを越えてしまった感がある。そのところについて、子どもを取り巻くところの問題に限って少し考えてみたい。

阪神・淡路大震災は一部の町並みを消し去ってしまうという決定的な物損を残した。しかし、人びとのところにも大きな傷痕を残していった。子どももその例外ではなかった。自宅を失った、学校が避難所になった、遊び場がなくなった、そういった子どもの生活の場を奪われたことによる傷も大きい。親兄弟を失った子たちの心傷は計り知れない。そのような目に見える、誰でもが納得するような被害だけではない。私の臭いがしみこんだおもちゃ、寝るときには欠かすことのできないあの薄汚れたタオルケット、それはその子にとってかけがえのないものであった。それが失われたのである。

☆ 子どもに何が起こったか

震度7という大きな衝撃によって、子どもに何が起こったか。被災地救援で一番沢山見られたのは退行現象、すなわち赤ちゃん帰りであった。親にまわりつくようになった、指しゃぶりを再開した、又おねしょをするようになった、誰かそばにいないと不安になって泣きだす、などである。いまの年齢よりも幼児段階に一時戻ってところの安定を保とうとする、親に縋って不安を解消しようとする、幼いところの健気な危機適応の企てであった。これを新聞はPTSDという表現で報道した。子どもに起こったところの揺れは、そのような病名をくっつけるようなものではなく、ごくごく当たり前の、大変な事態に直面したときに子どもが示す防御反応であったのだ。

☆ ところの臨床は、何をしてやるができるのか

今回の大型災害は、初期の段階からメンタル・

ケアが大切だと叫ばれたことが一つの大きな特徴になっている。子どものメンタル・ケアについてもいくつかの活動が現地に提供された。地震が夜明け前、すなわち子どもがみな家族と一緒にいる時間に発生したのが不幸中の幸いで、子どもにはそれほど多くのPTSDは生じなかった。だけど、安心してすることはできないと私は思う。それは、初めに書いた、その子に取ってかけがえのないものを失った（専門用語で言

えば、対象喪失）ということに由来するところの傷はこれから、1年、3年、5年も経ってからゆっくりと現れてくるものであるからだ。そのことへの対処を、ところの臨床家は準備する必要がある。いつ、どこで、どのような形で喪失の傷が頭をもたげてくるか、はっきりとは判らない。姿の見えぬ相手に防衛手段を考えなければならない訳である。

☆ 今後のために

予見できぬ問題に対処するとなれば、子どもを集団で見つめる職種に期待するしかない。幼稚園教諭、保育所保母、そして学校の養護教諭には、今後過分の尽力を期待しなければならない。現地の人々だけでは持ちこたえられない。災害直後の興奮的救援ではなく、これから息の長い外部からのメンタル・ケアへの援助が期待されている。

災害は、地震、水害、火山噴火、津波だけではない。誘拐、交通事故、

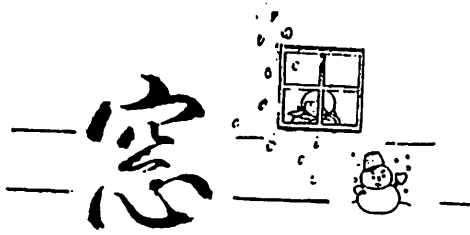
通り魔等々、子どもの生活は災害に囲まれているといっても差し支えない。そのような、個別の災害に対してもところの臨床家は精力を注ぐべきだということをも、阪神の地震は教えてくれたのではないか。そして、個人の小さな災害遭遇に対してもところのケアを提供する、それが平和で豊かな社会の証明だ、そのように考える時代が到来したのではないか。

(三重県立小児心療センターあすなろ学園園長)

子どもと災害

清水將之





「十年のあゆみ」の編纂にあたって

水谷 巍

記録を残す目的

井戸水に感謝する前に井戸を掘った人への感謝を忘れてはいけない、という諺があります。今、10年を経たいのちの電話は、大きな社会的使命を果たし、それなりの評価を受けています。もちろん、日々電話を守ってくださっているボランティアの方々、また、この不況の時節、多額の寄付をおよせくださる事業所、個人の皆様の功績であることは言うまでもありませんが、10年前、名古屋にいのちの電話を開設しようと奔走して下さった方々の努力も忘れることはできません。にもかかわらず、その功労者の方々、たとえば開設の呼びかけ人、準備委員、事務局長、運営委員長、このうち何人をご存知でしょう。かく言う私も開設2年後に長岡先生にお誘いを受けて運営の役に加えて頂いて8年目を迎える者ですが、この草創期の功労者の半分は顔もさ知りません。この原因の一つは、開設にご盡力下さった多くはキリスト教職者であり、その方々は転勤があるということです。

この方々の足跡をきちっと記録に残しておくことが功労に報いるということに留まらず、明日の発展を励ますともしびとなると考えるからです。

生きた証言集として

全員参加の文集にしようという編集方針をたて6月に関係者みなさんに投稿を呼びかけました。

わずか10年前のことですが、たとえば、斉藤友紀雄先生を囲んで中央教会で開かれた、いわば名古屋いのちの電話の出発となる歴史的集會があったという情報を清島牧師から得ましたが、誰が集まり何日に開かれたか分からない。探しあぐねた結果、Sさんの昔の手帳から判明したわけですが、

かなりの部分は聞きとり調査も必要とされました。

いのちの電話開設のなぞ

三つのなぞがかねがね心にかかっています。

第一は、いのちの電話というのは大変な事業である。同好の士が集まって勉強会を始めよう、趣味のサークルを作ろうというのとわけが違う。これがわずか数年で動き出してしまった。いったいどんな力が働いたんだろうということです。

第二はどう財政を確立したかです。寺としても募財にとり組んだことはたびたびあります。だからこそそのむづかしさを知る者にとって、どうして、しかも着実に実績が積まれたかが不思議でありません。

第三は、相談員の養成についてですが、心理カウンセリングは多くの流派があり、横の交流はあまりないのがふつうです。ところが名古屋では医師・カウンセラーこそって協力を寄せて下さっている。どういう働きかけがあったのか不思議に思えるところです。

守秘義務のかべ

いのちの電話は相談事業ですからその相談方法や内容のあゆみを記録すべきものです。もし相談内容を逐語録風に記述できたら、またその対応の仕方、緊急性を要する事例等々記録できたら心理相談の比較研究にとって貴重な資料となりますが、それができないのが宿命です。

「唱うれば仏もおのれもなかりけり、ただなむあみだぶつなむあみだぶつ」という古歌があります。仏教では救ってやる側、救ってもらう側、ともに絶対的存在、上下関係もないただ慈悲のふれ合いだけが風のように交されるという意味ですが、私はかねがねカウンセリングは極めて仏教的だと感じています。今電話で交される電波のみに意味があつて、その後に記録を残すとか研究の資材にするとかにとらわれるのは迷いなのかも知れません。

相談員集団の成長

いのちの電話の歴史が論じられた時、相談員の

横のつながりはあまり話題にされなかったように思います。以前は、日頃の不満を他県と比較してホーラム等で発言して、という場面をよく見かけました。今話合いの場が成長し、例えば24時間体制へのたかまりもこの中から生れてきました。このころは親睦会というと80人も集まります。この発展を総括し全国に拡げてゆきたいと思います。

相談員の顕彰

会社の歴年記念式ならば永年勤続者の表彰があります。相談員への感謝状については記念式の準備会で度々話題にしてきました。結局個人名を公表しないことになったわけですが、10年のあゆみを記述するにあたり、一人ひとりの業績を記録にとどめたいという願いにも守秘義務が壁になりました。

10年のあゆみをなるべくなまの形で書きとどめる。執筆者の主観による作文におちいらないように、当事者のできれば複数の証言を綴りあわせるように意図したわけですが、その証言には実名が不可欠です。誰が言ったのかわからない意見では作文と同じで史料的な価値は半減します。運営スタッフの声は実名の原則を守れますが、相談員の声となるとたちまち匿名の壁にはばまれました。心残りの部分です。

一級資料もしもし

5月編集会議、7月末原稿集約で9月迄の1ヶ月でまとめることができたのは種本があったからです。隔月の広報誌、仲間通信もしもし、を時代順に切貼りすればよかったです。本当はもしもの縮冊版でも作れば用が足りたでしょう。10年にわたって書きつづけられてきた、このことも顕彰に値すると思います。今さらのようにいのちの電話10年のあゆみを支えてきた多くの人びとの努力に驚嘆させられました。

こうした広報に長年たずさわってきたスタッフ、校正の技術はプロ並みで、印刷、製本担当は短期間で仕上げてくれました。これらのすぐれた編集委員も大切な功労者でした。

(総務委員長・10周年記念誌編集委員長)



ご援助ありがとうございます

1995年10月1日より12月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知のちの電話協会
理事長 相馬 信夫
財務委員会

賛助会員 A

志村 遼江	加藤 慎二	加藤 順子	八木 武志	青木 恵子	榎本 久美江	志村 昌	恵男
小野 孝也	恒川 義朗	藤島 祐子	恒川 新明	木松 從竜	川村 敏夫	福田 昌	茂夫
森 茂見	伊藤 友情	岩田 圭子	岩田 藤	榎 島 竜雄	高崎 照美	傍島 茂	夫昭
須田 節代	森岡 諭	向田 正俊	須藤 よし子	鈴木 富美	澤村 修・幸子	嶋田 信	
北 郁子	本田 健次	菅原 美智子	妨久保 湯子	中川 幸子	中山 政和		
内藤 弘	植田 望	明比 郎代彦	河村 久子	前田 正子	木全 昭二・磨沙美		
カトリック蟹江教会	興徳寺佐久間敬止	聖母カテキスタ会	八事聖霊修道院				

賛助会員 B

谷口 守行	今井 謙吾	岡田 喜美江	河村 公子	松村 睦子	萩原 孝子	原 芳	
真山 光弥・成子	下村 明子	加藤 倫子	青山 玄	高嶋 剛三郎	平田 たづ子	加藤 幸雄	
金子 紀子	岩田 百合子	黒田 忠嘉	青野 善久	高太 敦子	遠山 千寿子	北山 郁子	
西村 讓	末田 香里	三浦 一秋	金森 タイ	柴田 美江子	小尾 雅彦	松井 くら	
佐々木 敏	土屋 美恵子	小室 美奈子	布村 明二	坂東 信吾	祖父江 文宏	石田 義人	
犬塚 正道	和久 英子	伊藤 とき子	伊藤 みつ子	齊藤 延枝	大森 正樹	金森 森な	
大塚 博	菅原 和夫	菅原 真弓	菅原 芳樹	町田 隆哉	大見 玉	橋本 茂乃	
加藤 晃							

賛助会員 C

増田 新治	佐藤 嘉孝	川端 良見	常富 佳子	坂野 もと	鈴木 美代子	神谷 将弘	
松田 百代子	西野 友英	西野 三緒子	伊藤 宗太郎	小山 内 典	林 西 子	田尻 美智子	
安坂 武夫	太田 重一	寺田 弘夫	大野 邦忠	山相 康一人	西 鶴 和子	高橋 孝示	
片岡 洋子	山口 武昌	西後 藤恵美	相馬 貞蔵	相川 崎秀子	長倉 久子	北野 村 妙子	
山田 すあ	榎田 進	鈴木 国弘	鳥居 平和	武嶋 忠子	家田 祐子	津ノ内 紅	
上田 弘之	堀 瑛子	伊東 明子	柳 生球	西田 スエ子	佐藤 辰一	金子 今朝枝	
山田 敦代	浦下 桂子	林 周子	春日 道	栗田 美津子	H. タイス	洞谷 鈴子	
湯瀬 美智子	村上 賢三	小崎 美登里	大島 節子	小田 紀子	花村 三智枝	内藤 克子	
渡辺 邦俊	石田 美代子	平野 昌子	赤石 百合子	細川 美代子	服部 伸秋	藤原 葉子	
日本福音ルーテル復活教会婦人会	日本基督教団春日井教会婦人会						

点滴

「白旗をかかげる知恵をもて」と提案します。

◇小生、成長停止体験というものを経験しています。かつては僅かながら毎年所得がアップし、交際範囲も拡がり…というように右肩上がりできてきました。50歳を過ぎた頃からでしょうか、体力の衰えや記憶力の低下を実感するようになりました。仕事も自信満々とはいなくなり、家庭でのかみさんの発言力がジリジリと強くなっていきます。

◇こんな時に「俺はダメだ」と落ち込んでしまうのは、不幸の始まりでしょう。だからといって「まだまだやれるぞ！」と背伸びをするのは、頑固親父になるだけです。ここでの賢い解決策は「白旗を掲げること」だと自分に言い聞かせているところです。白旗を敗北の印として上げるのではなく、これによって事態を転換する意思を表明しようというわけです。◇勝海舟は西郷隆盛との会談で白旗を掲げて、大きな混乱も無く明治維新へ転換を果たしました。太平洋戦争では頑固に意地を張って白旗を掲げるタイミングを逸し、沖繩戦の不幸や原爆による多大な犠牲を強いられました。それでも8月15日の白旗は民主主義へ、経済成長へと体制の大きな転換をもたらしました◇自分の成長停止体験と明治維新や太平洋戦争の敗北を並べるのはおこがましいことですが、事態の転換ということでは同じことです。我が国も閉塞状況を打開するために経済第1主義に白旗を掲げる時でしょう。学生諸君は無理をしないで、素直に白旗を掲げる知恵をもてはじめも減少しましょう。◇「くるしみなやみ」からの脱皮に、「白旗を掲げる知恵をもとう！」 (M・K)

法人賛助

真宗大谷派崇覚寺 西枇工業株式会社 豊田総建株式会社 株式会社ハルレストランサービス 株式会社丸政
 名古屋トヨベツ株式会社 武田機株式会社 愛知三菱自動車販売株式会社 新明工業株式会社 大島造園土木株式会社
 安田生命保険相互会社中部本部 株式会社シンワ 株式会社オチアイネクス 株式会社名古屋銀行 株式会社三秀ブレイジョン
 株式会社東海通信資料サービス 株式会社アラキ製作所 株式会社トヨタレンタリース名古屋 安田火災海上保険株式会社
 宝泉寺 江川辰三 滝定株式会社 株式会社館屋 名証正会員協会 株式会社高木製作所 株式会社ミヤタコーポレーション
 理研産業株式会社 株式会社両口屋是清 アケボノ棺仁葬儀社 株式会社杉浦製作所 株式会社伊藤工務店 アサダ株式会社
 住友電装株式会社 豊田紡織株式会社 大榮印刷株式会社 カルビー株式会社名古屋支店 株式会社竹中工務店名古屋支店
 株式会社城北自動車学校 株式会社フジトランスコーポレーション 林紙産業株式会社 万能工業株式会社 豊田通商株式会社
 中部トヨタリフト株式会社 NTT中部電話帳株式会社 財団法人後藤報恩会 セントラルシステムズ株式会社 杉山工業株式会社
 日本電話施設株式会社 株式会社ワーロン トヨタ車体株式会社 株式会社豊田自動織機製作所 小島プレス工業株式会社
 トヨタ部品愛知共販株式会社 東邦ガス株式会社 株式会社三五 尼張精機株式会社 株式会社東海銀行 大橋鉄工株式会社
 株式会社オティックス 日本鋪道株式会社中部支店 日本電装株式会社 株式会社松坂屋 アラコ株式会社 糸重株式会社
 名古屋鉄道株式会社 豊田工機株式会社 株式会社東郷製作所 敷島製パン株式会社 株式会社高津製作所 医療法人共生会
 鬼頭工業株式会社 株式会社芝岡製作所 愛三工業株式会社 名古屋証券取引所 アイシン精機株式会社 株式会社サンゲツ
 日本ガイシ株式会社 名古屋共栄証券株式会社 中部電力株式会社 トヨタ自動車株式会社 昭和化学工業株式会社
 中村産業株式会社

寄付金

佐藤 あさ子	中川 錦子	内川 正邦	児島 竜雄	植田 望	中村 三郎	玉田 正子
持田 宜夫	棚橋 千珠子	中辻 三千代	千波 富美子	風岡 良子	吉田 聖	林 郁子
神尾 初子	内堀 なつ子	秋田 あや子	大隅 甲吾	長沼 てる子	豊田 江美	森 泰浩
林 たか枝	小川 祐美子	伊藤 恵美子	山下 タカ子	片岡 みち枝	間瀬 喜郎	加藤 みゆき
長倉 久子	成川 和子	伊森 タイ	長野 信一	伊藤 美江子	水野 久	棚橋 道子
加藤 雄一	成木 さち	傍島 千咲子	小出 八重子	小川 邦泰	鬼頭 明枝	寺井 かね子
R.A.メリット	山田 久子	豊田 理彰	北條 とく子	伊藤 祐和	見木 靖見	野口 博之
武保 輝彦	須藤 よし子	大橋 京	三田村 吉朗	高橋 多寿江	栗田 昌子	安原 律子
豊田 理恵	齊藤 喜世子	石田 弘幸	大洞 陽子	三澤 靖子	橋本 茂乃	

愛知西地区教会婦人会連合 名古屋ユニオンチャーチ 名古屋ルーテル幼稚園父母の会 ボーイスカウト名古屋第98団
 ガールスカウト名古屋第58団 日本福音ルーテル名古屋教会 真宗大谷派兼念寺 知多市立看護専門学校自治会
 幼き聖マリア修道会 在日大韓キリスト教名古屋教会女性会 神宮神学院 カトリック尼西教会 ヘンデル協会
 金城学院高等学校PTA教育部 日本基督教団愛知教会 名古屋聖マタイ教会 南山ファミリーYMCA 南山幼稚園
 日本基督教団金城教会 聖霊奉侍布教修道女会 カトリック五反城教会 日本基督教団豊田教会 栄冠幼稚園 井上幼稚園
 カトリック平針教会 日研オフィスシステム株式会社

クリスマス年末募金

安田 武夫	坂井 洋子	高橋 郁子	野村 妙子	鈴木 敦子	大島 まさ子	水沢 みち子
長岡 利貞	岩田 亮二	橋本 良男	小島 文夫	林 温江	佐野 百合子	坂東 信吾
中野 悦美	石田 義人	野村 紘子	佐藤 辰一	牧岡 恒夫	高田 邦彦	神田 輝夫
河垣 栄三	宮田 喜代子	太田 立男	鳥井 寛	柳原 佳枝	森 浩子	平尾 泉
伊藤 とき子	伊藤 みつ子	山田 正義	大橋 玲子	志村 澄江	久野 ひろ子	内藤 文子
福岡 敬子	白田 治子	近藤 喜世志	五藤 昭子	水野 愛子	栗田 美津子	H.タイス
森下 眸	飯尾 てる	近藤 直枝	河野 登喜子	飯塚 重五郎	梅澤 晴子	伊部 宏
多和田 いみ子	大和田 康司	鈴木 富子	内柱 綾子	森部 暁子	髭原 寿	桜井 房博
竹内 哲子	梨本 将代	浅野 稔	髭浦 和由			

日本基督教団春日井教会婦人会 寂光院松平實胤 日本基督教団半田教会 名東教会婦人会 日本基督教団熱田教会
 金城学院高等学校 有限会社岩田電算機会計事務所 日本基督教団中京教会婦人会 聖パウロ女子修道会 聖園天使園
 日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会婦人会 聖心の布教姉妹会鳴海修道院 日本基督教団熱田教会婦人会
 聖心会名古屋修道会 日本基督教団春日井教会 ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 日本キリスト改革派八事教会
 カトリック南山教会 カトリック半田教会 日本基督教団名古屋西教会 日本基督教団愛知守山教会

10周年記念基金寄付

長岡 利貞 足立 憲吾 伊藤 英資郎 西澤 信正 榎戸 佳子
 山下機械株式会社 タイホーコーポレーション株式会社 株式会社館屋 大島造園土木株式会社 株式会社オチアイネクス
 岡地株式会社 テレビ愛知株式会社 株式会社トヨタレンタリース名古屋 株式会社杉浦製作所 矢作建設工業株式会社
 株式会社東海銀行 株式会社高木製作所 中部電力株式会社 株式会社松坂屋 豊田総建株式会社 万能工業株式会社
 株式会社中外 武田機工株式会社 三井屋工業株式会社 川北電気工業株式会社 株式会社三和化学研究所 名証正会員協会
 理研産業株式会社 大橋鉄工株式会社 杉山工業株式会社 株式会社高津製作所 東海テレビ放送株式会社 株式会社中薬
 株式会社アラクス 株式会社スズケン 中部日本放送株式会社 清水建設株式会社 豊和工業株式会社 東海染工株式会社

株式会社車朋テクノロジー 株式会社東郷製作所 豊田通商株式会社 株式会社竹中工務店名古屋支店 東邦ガス株式会社
 株式会社大林組名古屋支店 トヨタビスタ東名古屋株式会社 中京テレビ放送株式会社 セキセイ株式会社 愛知電子株式会社
 株式会社フジトランスコーポレーション 三協アルミニウム工業株式会社名古屋支店 カトリック名古屋教区 萩原電気株式会社
 猪村工業株式会社 日動火災海上保険株式会社 カトリック安城教会 東陽倉庫株式会社 株式会社豊田自動織機製作所
 株式会社タケヒロ 豊田工機株式会社 トヨタ車体株式会社 中央発条株式会社 豊田合成株式会社 名古屋電子株式会社
 愛知株式会社 株式会社芝岡製作所 糸重株式会社 愛三工業株式会社 アイシン精機株式会社 タカラ企画株式会社
 敷島製パン株式会社 愛知製鋼株式会社 西川印刷株式会社 大成株式会社 株式会社エイデンサカキヤ 興和株式会社
 株式会社三秀プレジジョン 株式会社伊藤工務店 株式会社東海通信資材サービス 尾張精機株式会社 アラコ株式会社
 株式会社青雲クラウン 愛知スズキ販売株式会社 名古屋トヨペット株式会社

第17回いのちの電話全国研修会 名古屋大会

大会テーマ

引き継ぐバトン ひとりひとりの力

——— みなおそう つくりだそう 新しいいのちの電話 ———

日程 1996年11月14日(木)～16日(土) 会場 名古屋国際会議場

愛知いのちの電話協会日誌

- 11月2日 全国研修会準備委員会
- 4日 10周年記念プラスコンサート
- 6日 世話人会
- 10日～12日 第16回いのちの電話全国研修会
茨城大会
- 15日 愛知電話相談ネットワークの会
- 20日 訓練委員会
- 25日 ケース研修会
- 29日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 12月2日 相談員懇親会
- 5日 “もしもし”懇談会
- 7日 全国研修会準備委員会
- 11日 世話人会、訓練委員会
- 26日 財務委員会
- 27日 全国研修会準備委員会
- 29日～1月4日 年末年始事務局休館
- 1月6日 全国研修会準備説明会
- 8日 “ ”
- 7日～8日 近畿東海ブロック事務局会
- 14日 和歌山いのちの電話10周年記念式典
- 17日 愛知電話相談ネットワークの会
- 19日 継続研修を考える会
- 22日 全国研修会実行委員会
- 29日 訓練委員相談員懇談会、訓練委員会

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします
 いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。
 年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。
 会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。
 法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられません。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口)
A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 理事長 相馬信夫
 口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758
 お問い合わせは…
 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 名古屋いのちの電話
 事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1996年早春

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257

1996年2月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会